

金沢随一の繁華街、片町商店街のほど近くにある金沢新天地商店街

北陸新幹線開業から4年が経過した現在に至ってもなお、金沢は多くの観光客が訪れ、たいへんな賑わいを見せている。正確に言つならば、勢いは衰えるどころか、むしろ、より多くの国の人々を集め、観光都市、そして歴史都市としての地位を日々高めている。

## 国内外の人を惹きつける歴史都市

# 持続可能性高める旧商店街

北陸新幹線開業の前後、老朽化した数多くのオフィスビルは宿泊特化型のホテルに姿を変え、それはいわゆる表通りだけではなく、これまであまりたくさんの方が通行することのなかった場所にまで宿泊施設が立地することとなった。

## 取り残された商店街

金沢は年間を通じて雨が降る日が多く、また、冬には雪の降る日も多い。したがって、必然的に車中心の生活となり、地元の人々が中心市街地をはじめ、

～文化的歴史的所産を巡る～

# 残したい情景

第8回 石川県金沢市

一般財団法人 日本不動産研究所

で、隣席に座る者同士の肩がぶつかる程であるが、その距離感こそが赤の他人同士に不思議な緊密性を生み、独特の居心地の良さを醸成している。

## 実行委がSNS活用

昭和レトロと先述したが、組合は実行委員会を介してイベントを開催し、SNSを活用した取り組みを行っている。その甲斐あってか、お客には若者の姿が目立ち、週末ともなれば大変な活況を呈している。

洞化、とりわけ新幹線開通による新駅開業後には駅周辺への顧客流動化が進行。旧来の繁華街における店舗閉鎖等が見られるなか、観光客を取り込み、地元客のリピート率を高めることによって、持続可能性を高めている商店街の姿がここにある。

通行量を確保し、顧客を呼び戻すべく、再開発事業を中心とし、新たなまちづくりを進めることを否定するつもりは毛頭ない。しかし、新規に資本を調達することなく、手持ちの魅力で十分な訴求力を確保する古い商店街の在り方の一つの答えを示しているこの商店街が、今後時代の変容に則した形で嬬やかに生き残って行くことを期待してやまない。(金沢支所/不動産鑑定士・神田勝廉)

るには程良い街なのか、これまで日の目を見なかった、言い換えると、時代に取り残されつつあった場所にスポットライトが当たる事象が生じた。

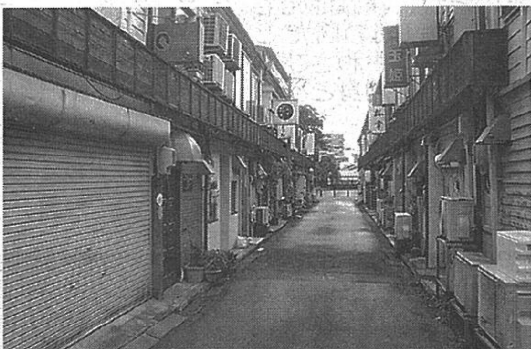
金沢駅から南東方に約2・5km。観光地として名高い兼六園や金沢21世紀美術館からは徒歩圏内で、金沢随一の繁華街として120年の歴史を有する片町商店街からほど近い場所に「金沢新天地商店街」は存する。

この商店街の発足は昭和25年で、商業協同組合として発足した当初は計65店舗で構成されて

いた。その後、形を変えつつも昭和38年に新天地商店街振興組合として石川県より設立認可を得たこと。

古い街特有の狭い通りに居酒屋や寿司屋、バー等、小さくもとても個性的な店舗が軒を連ねている。初めてここを訪れる人は必ずと言ってよいほど、「昭和レトロな風景ですね!」、という台詞を口にしますが、そこそ映画の撮影セット、書き割りのような昭和の飲み屋街が広がっている。

一軒当たりの席数は5席前後



狭い通りにこじんまりとした個性的な店舗が軒を連ね、若者も目立ち週末は活況を呈している